

「ICGN-IIRC 東京コンファレンス 2018」概要

1. 大会テーマ

Journey towards longer term value creation
(長期的な価値創造に向けて)

2. 日時

Day 1 2018年2月28日(水) 【コンファレンス・セッション】

Day 2 3月1日(木) 【フォーカス・セッション】

3. 会場

【コンファレンス・セッション】 マンダリン・オリエンタル東京(東京都中央区)

<http://www.mandarinoriental.co.jp/tokyo/>

【フォーカス・セッション】 東証ホール(東京都中央区)

<http://www.jpx.co.jp/corporate/jpx-profile/access/index.html>

4. 主催 国際コーポレートガバナンス・ネットワーク(ICGN)、国際統合報告評議会(IIRC)

共催 日本公認会計士協会 株式会社日本取引所グループ/株式会社東京証券取引所

5. 参加対象 企業、機関投資家、公認会計士、政府関係者等

6. プログラム別紙をご参照ください。なお、以下のホームページで随時更新します。

<https://www.icgn.org/events/icgn-iirc-tokyo-conference>

※日英同時通訳あり

7. 申込方法以下のICGNのホームページから直接お申込みください。

<https://www.icgn.org/node/1798/register>

以上

ICGN-IIRC 東京コンファレンス 2018

「長期的な価値創造に向けて」

(スピーカーは一部変更となる可能性があります)

2月28日(水) コンファレンス・セッション (マンダリン・オリエンタル東京)

07:15 – 08:45 参加者受付

07:30 – 08:45 モーニング・セッション

09:00 – 09:10 開会挨拶

関根 愛子 日本公認会計士協会 会長

09:10 – 09:30 歓迎の辞

Kerrie Waring ICGN エグゼクティブ・ディレクター

Richard Howitt IIRC CEO

09:30 – 9:45 基調講演

越智 隆雄 金融担当副大臣

09:45 – 10:00 基調講演

河野 正道 OECD 事務次長

10:00 -11:00 プレナリー1:日本における長期的な企業価値の向上

アベノミクスの導入以降、日本における長期的な企業価値向上に向けた機運が高まっている。一方、企業による健全なリスクテイクと長期的な成長を促す観点での課題も残されている。本セッションでは、特に次の問いに焦点を当てて議論する。

- ・ リスクテイクを通じた効果的な資本配分を阻害する要因は何か。
- ・ 内部留保を投資に振り向け、企業の生産性を高め、経済成長につなげる観点から、コーポレートガバナンスと投資家のスチュワードシップについてどのような改革が求められるか。

- ・ グローバルの市場では、戦略と投資のサイクルを連動させるために、どのような取り組みが進められているか。

スピーカー

越智 仁 株式会社三菱ケミカルホールディングス 代表執行役社長
 公益財団法人 経済同友会 経営改革委員会 副委員長
 伊藤 邦雄 一橋大学 CFO 教育研究センター長、一橋大学大学院特任教授
 小沼 泰之 株式会社東京証券取引所 取締役常務執行役員

モデレーター

Pru Bennett ブラックロック スチュワードシップ責任者（アジア太平洋地域）（香港）

11:00 – 11:30 休憩

11:30 – 12:30 プレナリー 2：企業報告とコーポレートガバナンスの連動

日本では、すでに 300 社超の企業が統合報告書を発行するなど、統合報告実務を国際的にリードしている。統合報告は企業報告の質の向上にも貢献している。国際的にも、統合報告が企業価値向上につながるとともに、資本コスト低減などを通じ、長期投資家への魅力度を高める役割を果たしているという成果も報告されている。一方、企業報告が企業の価値創造プロセスの伝達手段となる上での課題も多い。本セッションでは、特に次の問いに焦点を当てて議論する。

- ・ 企業報告プロセスは、どの程度、企業経営及び監督プロセスと統合されているのか。
- ・ 企業戦略及び業績評価に関する情報は意思決定プロセスで如何に活用されるべきか。
- ・ 統合報告は企業経営者と投資家との高品質な対話を支持する仕組みとなるか。

スピーカー

西井 孝明 味の素株式会社 代表取締役 取締役社長 最高経営責任者
 福本 拓也 経済産業省 経済産業政策局 産業資金課長 兼 新規産業室長
 Nicolas Huber ドイツ・アセットマネジメント Head of Governance（ドイツ）
 Susanne Stormer ノボ・ノルディスク Chief Sustainability Officer（デンマーク）

モデレーター

Anne Molyneaux ICGN 副議長
 IIRC カウンシルメンバー

12:30 – 13:30 プレナリー 3：コーポレートガバナンスに関する対話セッション

長期的な企業価値創造に向けた、投資家と企業経営者/取締役会議長との対話

スピーカー

永山 治 中外製薬株式会社 代表取締役会長 最高経営責任者
ソニー株式会社 取締役会議長

Louise Davidson 豪州退職年金投資家協会(ACSI) CEO (オーストラリア)

13:30 – 14:30 昼食

14:30 – 15:45 分科会

15:45 – 16:00 休憩

16:00– 17:00 プレナリー 4：実効的なステュワードシップ実現における課題と対応

日本において、株主の権利は強いが、政策保有株に代表される構造的な障害によりエンゲージメントは制約されている。このような状況は、海外投資家と国内投資家との連携ニーズを制約するとともに、日本の株式市場の不透明性を増す要因となっている。本セッションでは、特に次の問いに焦点を当てて議論する。

- ・ 日本版ステュワードシップ・コードは、企業と投資家の対話にどのような改善をもたらしているか。
- ・ アセットオーナーとアセットマネジャーは、新たな要請にどのように対処しているか。

スピーカー

田原 泰雅 金融庁 総務企画局企業開示課課長

三瓶 裕喜 フィデリティ投信株式会社 ディレクター・オブ・リサーチ

Anne-Marie Jourdan ICGN 理事、退職年金積立基金 (FRR) Chief Legal Officer (フランス)

Blair Cowper-Smith オンタリオ州公務員年金基金 (OMERS) Senior Adviser (カナダ)

モデレーター

Kerrie Waring ICGN Executive Director

金融庁ステュワードシップ・コード及びコーポレートガバナンス・コードのフォローアップ会議メンバー

17:00 – 18:00 プレナリー 5：一貫した企業報告体系の構築：規範性と市場評価のバランス

一貫した企業報告システムは、金融システムと資本市場の機能の効率化に資する。また、効率的かつ効果的なコミュニケーションをもたらす体系的な企業情報開示システムの存在は、企業・投資家の双方にとって重要な課題である。本セッションでは、特に次の問いに焦点を当てて議論する。

- ・ 多様な制度要請に対して統合的・体系的な企業情報開示システムをどのように実現するか。
- ・ 英国の戦略報告書などの海外の事例から何を学べるか。
- ・ 国際的な枠組みは、企業報告システムの構築にどのように貢献するか。
- ・ グローバル投資家が、より効率的に有用な情報を活用するには、どのような仕組みが必要か。

スピーカー

古澤 知之 金融庁 総務企画局審議官

Paul Druckman 財務報告カウンシル (FRC) 企業報告カウンシル議長 (英国)

Gary Kabureck IASB 理事 (米国)

Ian Burger ICGN 理事

ニュートン・インベストメント・マネジメント Head of Corporate Governance (英国)

モデレーター

岸上 恵子 日本公認会計士協会 常務理事

18:00 – 18:10 コンファレンス・セッション閉会挨拶 Michael McCauley, ICGN 議長

18:10 – 19:25 コンファレンス・レセプション

19:25 – 21:15 コンファレンス・ディナー

3月1日（木）フォーカス・セッション（東京証券取引所ホール）

08:15 – 08:40 参加者受付

08:40 – 08:50 歓迎の辞（2日目）

Richard Howitt IIRC CEO

08:50 – 09:00 開催挨拶

宮原 幸一郎 株式会社東京証券取引所 代表取締役社長

09:00 – 09:10 会議イントロダクション

Kerrie Waring ICGN エグゼクティブ・ディレクター

09:10 – 09:30 オープニング・リマーク

北川 哲雄 青山学院大学大学院教授

小森 博司 年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）

市場運用部次長兼スチュワードシップ推進課長

09:30 – 10:30 セッション 1：インベストメント・チェーンにおける資本配分の最適化

グローバルな投資家にとって、企業による非投資目的の株式所有は、財務資本マネジメントの観点から懸念事項となっている。株式持合いは、取締役会の意思決定等のガバナンス上の課題と結びつき、経営への実効的なモニタリングの阻害要因ともなりうる。投資家と社外取締役によるモニタリングは、こうした悪影響を緩和するための手段として強調されてきたが、長く持合いの歴史を有する日本企業にとっては、多くの課題が残されている。

スピーカー

北後 健一郎 企業年金連合会 年金運用部

コーポレートガバナンス担当部長、ヘッジファンド投資担当部長

David Smith アバディーン・スタンダード・アセットマネジメント

アジア地域コーポレートガバナンス責任者（シンガポール）

10:30 - 10:45

休憩

10:45 - 11:45 セッション 2：取締役会評価と取締役の指名

取締役会評価は、企業の戦略に適合した候補者を探す手がかりとなる。本セッションでは、特に次の問いに焦点を当てて議論する。

- ・ 取締役会評価は、日本企業にとってどの程度有用か、有効活用するための課題は何か。
- ・ 取締役会評価を通じて特定された重要課題の開示の質を、どのように高めていくことができるのか。

スピーカー

Ronnie Lim	Robeco	Senior Investment Specialist
George Olcott	第一生命ホールディングス、デンソー、日立化学	社外取締役
高山与志子	ジェイ・ユーラス・アイアール株式会社	マネージング・ディレクター

モデレーター

Stephen Klemash America Centre for Board Matters, ,Leader（米国）

11:45 – 12:45 セッション 3：実質的で信頼ある開示の実現：形式開示を打破する

日本のコーポレートガバナンス・コードは、コンプライ・オア・エクスプレイン・アプローチにより基本的な原則を示している。本セッションでは、特に次の問いに焦点を当てて議論する。

- ・ 企業・投資家の双方において、チェックボックス型の対応から、より実質的な行動変化に転換し、企業の長期的成長を促すためには、どうすればよいか。
- ・ コンプライ・オア・エクスプレイン・システムの改善を通じ、企業と投資家の間の意味のある対話を促すには何ができるか。
- ・ チェックボックス型の開示をどう打破することができるか。

スピーカー

柳 良平	エーザイ株式会社	常務執行役 CFO 兼東洋大学客員教授
井口 譲二	ICGN 理事、ニッセイアセットマネジメント株式会社	チーフ・コーポレートガバナンス・オフィサー

モデレーター

小林 昭夫 PwC あらた有限責任監査法人 パートナー

12:45 – 13:00 コンファレンス閉会の挨拶

Mervyn King IIRC 議長